

130212 ウソ

先日、「**ウソ**」という野鳥を紹介しました。

(<http://www.pref.osaka.jp/attach/15501/00099022/130201uso.pdf>)

その際の写真は、木の高いところにとまっている個体を撮影したのですが、今回は**接写**に成功したのです！

この種は、本州中部以北の**亜高山針葉樹林帯**などで繁殖するのですが、冬になると暖地に移動してきます。

ここ**大阪**では**冬**の間、山地だけでなく平地の樹林などでも出会うことができるのです。

さて、この日(2/9)、まだ雪の残る「**岩湧山系**」を歩いていたら...

溪流の対岸の林縁で、木の実をついばんでいる**3羽の雄の「ウソ」**を見つけたのです！

「**フィ - フィ -**」と澄んだ、そして細い声で鳴き、少しずつ移動しながら木の実を食べていました。

距離は20mくらい、コンパクトデジカメで鮮明な写真を撮るためには、少なくとも5mくらいまで近寄らなければなりません。

積もった雪に足を取られないように溪流に降り、一部が凍った岩を慎重に渡り、そして対岸を登ると「ウソ」までの距離は10m弱、もっと近づかなければなりません...

幸い積雪であまり足音がしない上に、せせらぎの音も味方に付け、**そろりそろり**と接近、ついに目標の**5m**の距離まで近づくことができました。

「**ウソ**」たちは木の枝にとまって、ときにアクロバチックな体勢で食事に余念がない様子、気づかれぬようにゆっくりとした動作でカメラを構えて撮影。

何枚か撮ったところで、思いがけない幸運が！

「**ウソ**」たちが、すぐ近くの雪面に降りてきたのです。

無理な体勢での樹上の食事より、雪面から頭を出している草の実の方が食べやすいと思ったのでしょうか？

でも、雪の中に素足で立っているのは寒そうですし、腹部が雪面に埋もれたりしているのを見るとこちらまで震えてしまいます...

でも... さすが北国育ちの彼ら、鍛え方が違うのでしょうかね。











